ユニマーブルパネル
uni MarblePanel

4種類の工法

内部壁の仕上げ材に使用するユニマーブルパネルは

様々な下地に使用できるように改良しました



ユニマーブルパネルとは？ (uni Marblepanel ： 以下 uMP)

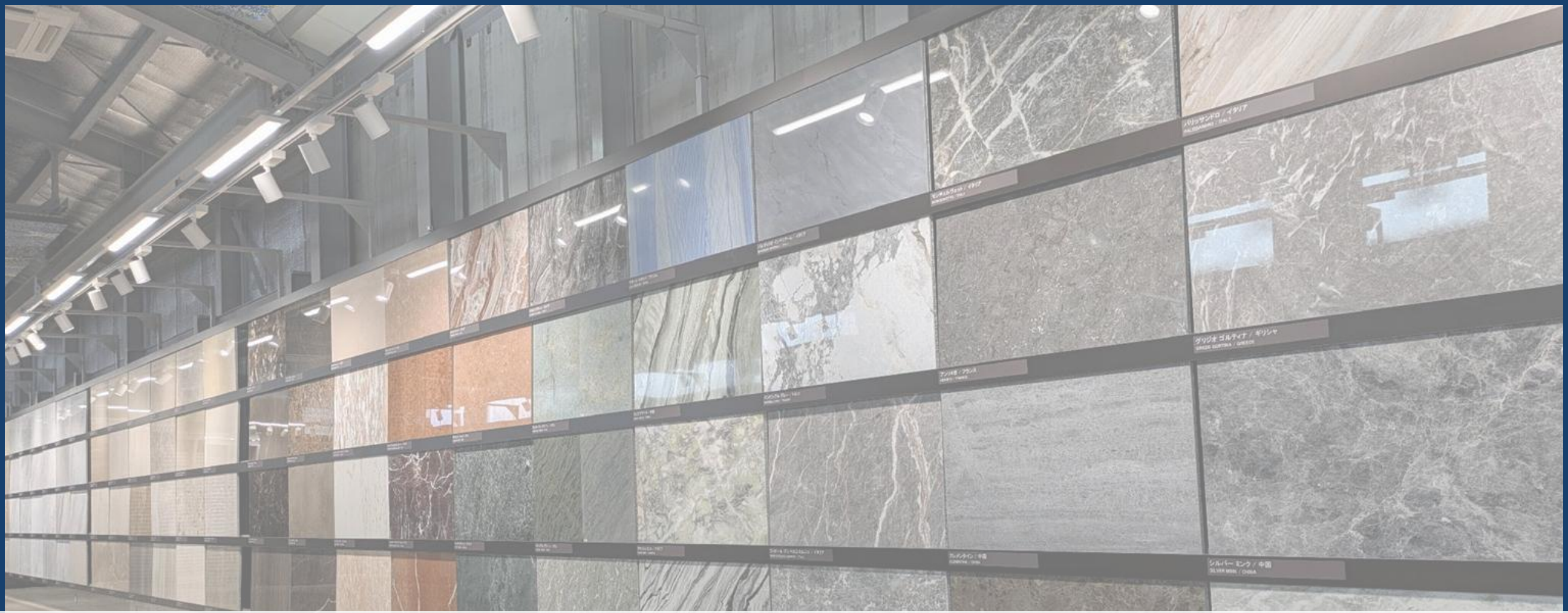
『石とアルミハニカムの複合板』

uMPを用いて建築物の内壁の仕上げを行う

標準サイズ：780×1160×21㎜（25kg/㎡）

＊大判の特殊サイズ：最大　1160×2360×21㎜

使用上の注意
・外壁、浴室などの常時湿潤状態に面する壁には使用できません。 ・不燃材料ですが、耐火壁仕様ではありません。



4種の下地に対応する工法のご紹介

『環境に適応して変化し、進化するユニマーブルパネル』

代表的な建物構造の種類

木造

鉄骨造

鉄筋コンクリート造

1.LGS 下地，鉄骨下地

2.木下地

3.コンクリート　下地

新工法 ｜ 4種の下地に取付できる

1. LGS下地 ＋（開口部、5m以上などの場合は鉄骨による補強が必要）

- 壁クリップ35工法 標準、大判パネル （プラスターボードの二重貼り）＋ 亜鉛メッキ鋼板
- MP ボンド30工法　標準施工高さ3m以下 （接着剤張り：プラスターボードとケイカル板の二重貼り）

2. 木下地 （構造合板12㎜以上）

- 壁クリップ35工法　　標準、大判パネル
- MP ボンド30工法　標準施工高さ3m以下（接着剤張り）

3. コンクリート下地

- MPファスナー65工法
- MP ボンド30工法　標準施工高さ3m以下（接着剤張り）

4. 鉄骨下地

- 壁レールクリップ35工法

1. 壁クリップ35工法

LGS下地・木下地 ｜ ボードを張る場合

- uMP裏面にアンカーナットを溶接し、ボード下地*にuMP金物を緊結する。

＊ボード下地

木下地：構造用合板12㎜以上(大判パネルは18㎜程度)

LGS下地：PB２枚張り+亜鉛メッキ鋼板 0.8㎜~1.2㎜補強
(大判パネルは、1.2㎜以上補強)

※大判パネルは、上・下・中央の6ヶ所のみ金物を下地に固定する(H1601㎜以上)

下地精度：-5㎜～+2㎜

壁クリップ35工法は層間変位に追従し、地震によってひび割れ、落下しない

2. MPファスナー65工法

RC下地

- uMP裏面にアンカーナットを溶接し、uMP金物（Z型）を
  コンクリート、モルタル下地にボルトアンカーで固定する。

下地精度：±5㎜以内

MPファスナー65工法は層間変位に追従し、地震によってひび割れ、落下しない。

※大判パネルは、上・下・中央の6カ所の金物を下地に固定する。
(H1601㎜以上）

3. MPボンド30工法

LGS下地・木下地・RC下地 ｜ ボードを張る場合

- uMP金物を併用する部分接着剤張り工法。
  uMP裏面にアンカーナットを溶接し、ボード下地にステンレス板（落下防止用）で
  機械的に固定して、弾性接着剤を裏面に点付けする施工

標準施工高さは3m以下

＊下地材

木下地：構造用合板(t 12㎜以上)

LGS下地：PB(t 12㎜)＋ケイカル板(t 6㎜以上)の2重貼り＋亜鉛メッキ鋼板0.8㎜程度補強

下地精度：－4㎜～+6㎜以内

内壁ボード下地条件 ｜ 共通条件

条件①	木下地は構造用合板(t12㎜以上) LGS下地は、PB2重貼り＋亜鉛メッキ鋼板0.8～1.2㎜補強が必要 鉄骨下地は、［100×50×2.3(100×50×2.3)］の縦胴縁として最大600㎜以下の間隔で必要 また、横胴縁はuMPチャンネルが必要
条件②	耐震性① 面外の強度：下地は総荷重(下地材＋仕上材)に対応する強度が必要
条件③	耐震性② 面外の強度：下地のスタッドピッチは@303㎜を標準とする

4. 壁レールクリップ35工法

鉄骨下地

- 鉄骨下地［100×50×20×2.3 または、100×50×2.3］で、縦胴縁として、最大600㎜　以下の間隔で組んでください。
- 横胴縁は、uMPチャンネル　75×15×2.3をパネル目地割に合わせて、固定金具で縦胴縁に緊結する
- uMPチャンネルにuMP金具を緊結する
  下地精度：-5㎜ ～ +2㎜
- 施工高さ：5m以上も可能(鉄骨下地の強度計算を行ってください)